

折り鶴

折り紙の代表的な鶴。
折り方の手順に従いながら、少しの変化や工夫で様々な鶴を表現する。

木材造形論の講義の中で 50 名の受講生を対象に実施した。木材の加工方法は、木材の性質により決定付けられる。木材は、生きている樹木の時が一番大きい。木材の加工とは、どのように樹木を切削するかを集約される。元の木材よりも大きなものを作る場合、接ぐ、継ぐなど部材同士を繋ぐ技術を利用する。実材を扱う技術は、実材の性質により限定されるが、そのような限定においてもなお、様々な工夫やアイデアにより造形の可能性が広がる事を身を以て体験する。講義の際に机上で実施可能なワークショップである。

折り方の手順に従いながらも、プロポーションに変化をつける、素材の扱いに変化をつけるなどの工夫から、様々な表情が生まれる。折り紙を作る際、飛ぶ姿、休む姿、動きのある形といった具体的なイメージを強く持つと良い。











